

## 第2回 開設準備検討会 議事概要

- 1 日時 令和元年7月22日(月) 13:30～15:00
- 2 場所 富山県庁4階大会議室
- 3 委員出席者 稲垣 晴彦 井上 孝 大西 ゆかり  
加藤 敏久 金岡 克己 神川 康子  
佐脇 由紀子 牧田 和樹
- 4 幹事出席者 教育長 伍嶋 二美男  
理事・教育次長 布野 浩久  
教育次長 坪池 宏  
参事・教育企画課長 広沢 久也  
生涯学習・文化財室長 菊池 政則  
教職員課長 坂林 根則  
小中学校課長 近藤 智久  
教育参事・保健体育課長 東瀬 義人  
教育参事・県立学校課長 本江 孝一  
県立学校課教育改革推進班長 番留 幸雄

### 5 会議の要旨

司会が開会を宣し、教育長が挨拶した。

#### 議事事項

##### (1) 県立高校再編の実施計画における新高校の開設準備について

事務局から、再編対象校における学校関係者の主な意見など、第1回の検討会の資料および参考資料から追加・修正した資料3の一部、資料5、6及び参考資料6～8について説明した。

教育長から、資料6-1の2の新高校の名称等に関することの地域・中学校等の①「特に異なる自治体間の再編統合であることを十分踏まえて検討してほしい。」という意見は、朝日町の笹原町長からのものであり、検討会の場でもしっかりと伝えてほしいという要望があったとの報告をした。また、別に、同資料の②において、政府の教育再生実行会議等で高校と地域との関係性に重視して取り組むこととされているので、高校の名称等の検討にあたって、その地域との協力関係が構築されるように配慮することが必要という意見があったことから、この点を踏まえた議論も進めさせていただくよう、併せてお願いした。

## ① 高校再編に係る学習活動や学校行事、部活動等に関すること

(金岡会長)

- ・最初に高校再編に係る学習活動や学校行事、部活動等に関することについて、前期再編での基本的な考え方や今ほど事務局からいただいた説明を踏まえて、発言をいただきたい。

(神川副会長)

- ・資料6-1には、学校やPTA、同窓会等から移行期に新高校が設置されない再編対象校の生徒たちに対する心配の声が上がっている。どれも大切にしたい意見であり、前回の検討会でも何人かの委員からも指摘されていたので、是非こういうことも考えながら新高校が設置されない再編対象校については、学習活動、部活動、様々な行事の面で支障がないようにということを改めて確認し、特段の配慮をお願いしたい。
- ・前回の繰り返しになるが、新高校における学習活動、行事、部活動については、これまでの学校の歴史や取組みを踏まえながら、実施計画に基づき、両校のよいところをできるだけ活かした形で継承してほしい。このような趣旨の意見は、学校関係者の意見にも大変多く見られるので、改めて強調させていただく。
- ・資料6-2の前期再編の評価は、目指していたところをクリアできていたのではないか。生徒目線から見ても、教育環境が整備され、両校のよいところを引き継ぎ、魅力が増した。また、生徒のモチベーションが非常に上がり、地域に根ざした教育活動がなされている。何よりも、生徒間の交流が実現でき、活性化し、生徒間の切磋琢磨、規範意識の向上もあったということで、想像以上に成果が得られたということを改めて確認させていただきたい。
- ・通学時間については、資料6-3を見ると30分以上の通学時間の割合が増えたところもあるが、新高校が選ばれる高校になって、少し距離が離れても通いたい高校になったという見方もできると思う。若干、時間はかかるような傾向はあるが、大きな負担になるような増え方はしていないと感じる。
- ・有磯高校と氷見高校による新高校の状況を見ても、60分以上の生徒が増えているが、特色ある内容について意欲があり、遠い距離でも通うという、ちょっといい見方すぎるかもしれないが、ある意味、大学、高等教育に近い選択がされているという点も確認できた。

(加藤委員)

- ・神川副会長の意見に賛同しながら、別のことを申し上げたい。
- ・資料6-2の前期再編の評価、生徒と学校関係者それぞれの意見を非常に心強く感じた。教育活動の充実は、生徒のアンケートとしてはいい感じである。非常に充実した教育活動がなされてきたおかげだろうと思う。
- ・学校の先生方をはじめ生徒も、統合という大きな節目で、集団としての気持ちが高揚して、非常に充実した活動ができる。前期再編はその通りの結果になったと思っている。

- ・今回の再編統合も、新高校においては、充実した活動で、統合してよかったという評価を言っていただけるように頑張っていたらと思うし、そうなることを期待してやまない。前期再編においては、そういう結果が示されており、非常に心強く思っている。
- ・今回は、部活動を新高校に引き継いでいき、さらに充実させていくという方向で検討しており、前期再編ではそこが強く出ていない。そこで今回は、部活動に対する記述に少し配慮し、「部活動に関する施設設備も含めた充実について配慮が必要である」という趣旨の文言を含めていただいた方がいいと感じている。今回の再編の一つの大きな目玉でもあると感じている。

(佐脇委員)

- ・前期の再編統合で非常に成果があったという資料がでていますが、今回も成果を上げるためには、資料6-1の1の地域・中学校等④に「新高校では、学科・コースの特色を発揮できるよう、施設設備の整備などをして、教育環境を整えてほしい。」とあるが、同様の意見はPTAと同窓会からも出されている。更に、実施計画の中にも「学習環境の充実を図り、新高校が魅力あるものとなるよう、必要な施設・設備の整備等について、段階的・計画的に検討を進めるもの」とあり、これは成果を上げるための非常に重要なポイントではないかと考えている。前回もお願いしたが、再編統合をよい機会と捉えて、しっかりと教育環境・学習環境の充実に努めていただきたいと考えている。
- ・また、中学生とその保護者に高校再編の概要を周知することがとても重要だと思っている。すでに新高校の概要リーフレットもできあがっており、受検生にとってはとても参考になるよい資料だと思う。今後、新高校のカリキュラム、学習内容を中心に情報を提供してほしい。今、子供たちはインターネットをよく利用すると思うので、ホームページの充実を図って、いろいろな情報を提供してほしい。

(大西委員)

- ・前回も申し上げたが、PTA、同じ年代の子供を持つ保護者として一番気になるのは、新高校が設置されない高校の生徒についてである。
- ・部活動や学校行事が、段々と生徒数が少なくなる中で、十分にできなかったり、思った通りにできないという状況が発生すると思う。特に大人数のチームでするような競技については、1チームを結成することができないこともあると思う。それについては、新高校が設置される高校と合同で部活動するなど、具体的な移動手段や指導者について相当な配慮をいただければと思う。部活動も引き継いでいくということは、今回の目玉となっていると感じているので、是非その部分を配慮いただきたい。それについては、参考5の1の3段落目にあるような配慮を、今回の再編においても引き続きお願いしたい。
- ・また、学習面についても、学年の数が段々と減っていくということは、教員の数も段々と減っていくことになると思う。先生の負担が大きくな

り、子供たちが各教科で十分な学習ができるのかということもPTAとしては心配である。兼務になるのか、教員数を厚く配置するのか、どんな形になるのか分からないが、新高校が設置されない高校の生徒たちが、最後までこの学校の卒業生でよかったと胸を張って卒業できるように、十分な配慮をお願いしたい。

(牧田委員)

- ・私も、新高校が設置されない高校のプロセスでの子供たちの不利益というところは、若干気になる。そこは是非手厚くお願いしたいのが大前提である。
- ・ただ、今回の再編は、学習活動や学校行事などについては全く心配していない。というのも、企業もいろんなコミュニティも人がたくさんいるところは必ず活性化しているので、再編によって人が増えるということは、当然そこに活気も生まれるわけであり、必然的に色々なことが能動的に動き出すだろう。
- ・また、新高校は、学校間で定員割れしないように頑張ろうとか、新高校の子供たちも、今まで1クラスしかなかったのが3クラス、4クラスになったことで切磋琢磨する環境が生まれるので、それは任せておけば必然的に結果は出てくると思っている。資料6等で前期再編の評価を見ても、その結果が出ていると思うので、このまま進めてほしい。

(井上委員)

- ・同様の意見になるが、新高校のリーフレットを見ても、新高校のよいところはかなり出ており、これをいい機会にして、新たな姿を作り上げていくということだと思う。
- ・再編についての意見も多方面から集まっており、詳細については開設準備室で個々の事情を踏まえながらやっていくべきだろうと思っている。特に、新高校が設置されない高校は非常に不利益になるところもあると思うので、そうならないようにカバーする必要があると思う。
- ・新しい部分も変わりつつある過程についても、きちんと生徒、保護者あるいは地域の方々に伝えることがないと、最終的な効果に結びつかないと思うので、できるだけ情報を流すことが必要であると思う。

(稲垣委員)

- ・前期再編時にも携わっていたので、前期再編の評価を非常に興味深く見ている。私自身はダイバーシティが非常に大事だと思っており、子供たちの選択の幅が増えることがすごく重要だと思っていた。概ね達成されていることを見て、非常にうれしく思っている。
- ・前期再編で各校を訪問した時、各校の校長先生をはじめ、現場の先生方が、本当に新しい学校をどうしていこうかと非常に心を砕いておられた。また、新高校を設置する学校だけでなく、新高校を設置しない学校も、現場としてできる限りのことをしている姿を見せていただいた気がする。
- ・それで、今回の再編だが、本当に前期のとおりでいいのかということを考えないといけないことがあると思う。

- ・企業合併の場合には、企業の経営者や社員の考えも当然聞いているが、高校の統合では、一番大事な生徒の声というのは聞いていない。というのは、今、生徒がいないから。
- ・そうした時に、今回の4件の再編の中で、ある意味で生徒像が想定できるものと想定できないものがあると思う。というのは、前期の再編の場合は、新高校が設置されなかった高校を受けていたと思われる子供たちが、かなりの確率で新高校を受検している。今回の再編の場合、3つの事例はたぶんそうだと想定はできるが、1つの事例についてはなかなか難しいと思っている。1つの原理原則で、縛ることができるのだろうか、私は若干疑問に思っている。
- ・そうすると、ルール無しでいけるのかということも考えないといけないが、私はこれだけ個別の事情が違えば、やはり現場の考え方を一番重要視していかなければいけないと思う。
- ・県の考え方なり、こういうときの制度を作る考え方なりはどちらかというとポジティブリストを作りがちだ。現場の意見を尊重して、現場の意見に合わせてその状況を作り上げていくとすると、ポジティブリストよりもネガティブリストを作った方がよいと思う。
- ・というのは、これはやってはいけない、というのを出しておいて、その他のことは現場の中で最適なことを出す。というふうに任せるというのがネガティブリストの考え方なんじゃないかと思う。そんなふうなやり方もあると思う。
- ・これから在校生が少なくなっていくのをどうするかという問題もあるが、この再編を生かし、長期的な視点で最適な富山県全体の人材を育成していくという考え方で、新しい体制を作っていくと思っている。

(金岡会長)

- ・皆様の意見を総合すると、参考8の教育再生実行会議の中にEBPMの推進があり、前期再編について具体的なエビデンスがどうだったのかということも示してあるので、多くの委員からは、今回の再編の方針そのものについては、これを進めるべきであるという意見をいただいたと思っている。一方、個別の事情で、前期の再編と違うところもあるので、十分な配慮が必要になるだろうという懸念もしかりだと思う。
- ・私のコメントとして1つだけ申し上げたいのは、4つの高校のリーフレットを拝見して、各高校が今置かれている立場、地域での特性を踏まえた上で、こういう形で新高校を作ろうという現場の意見がリーフレット作成時に十分話されているということを感じた。
- ・一方、稲垣委員から指摘があった1つの事例について、他とやや違うのではないかという意見も貴重であり、前回の委員会でも複数の方からご指摘いただいたところなので、是非ともきめ細かな対策等を考えていただきたいと思います。

## ② 新高校の名称、校歌、校章等に関すること

(金岡会長)

- ・続いて、2つ目の共通課題である新高校の名称、校歌、校章等に関することに移りたい。

(神川副会長)

- ・確認したいことがある。先ほど教育長からも補足説明があった資料6-1の2つ目の新高校の名称、校歌、校章に関するに地域や中学校の意見があり、参考8にも教育再生実行会議等々の意見もある。政府の動きとどうすり合わせて考えていけばよいのか、長期的に見てどうなるのかということも考えていかなければならないので、それをどう捉えるかという皆さんの意見を聞いてからにしたいと思う。

(金岡会長)

- ・それでは、先ほどと同じ順番で、加藤委員、今の神川副会長からのご指摘について。

(加藤委員)

- ・私も、今年5月に発表された国の教育再生実行会議の、普通科のあり方に関する提言に、非常に興味を持って新聞記事を読んだ。確かに、これまでの高等学校の普通科教育は、一斉的で画一的な学びだったと思う。
- ・参考8にあるように、類型の枠組みを国の方で示すことによって、それぞれの学校の特色ある取組みを推進しようという方向になっている。具体的には、4つの類型のうち④が今回の再編統合について、関心を持たされるテーマになると思う。どの学校も地域課題の解決、地域に根ざした教育活動を大なり小なり企画している。それを普通科のカリキュラムなどではっきりした形で位置づけ、それをもって高等学校の特色ある取組みを形作って、ひいては地域社会のリーダーとしての人材を育てるという方向へ行くのだろうと思っている。
- ・例えば泊高校と入善高校のリーフレットには、「未来の地域コミュニティ創造者たち」という表題で、新しい学校のキャッチフレーズとして打ち出している。このあたりが、こういう国の方向も踏まえた今後の普通科教育のあり方にも一石を投じる先進的な取組みになるという期待感を持っている。
- ・高校生になって初めて、広域的な人とのつながりができる。前回は申し上げたが、中学校から高校へ行くと、全県的な広がり友達と仲間付き合いになる。そうすることによって、逆に言えば、地域のことを外から見られる。したがって、各高校の地域活動は、地元の狭い範囲に限った活動ではなく、全県的な広がりを持たせた教育計画でないと、高校生としてちゃんと育たないという思いが、高等学校教育関係者に元々ある。
- ・今回の泊と入善の統合についても、地域に関する学習があるが、新川地区全体を含めた、あるいは富山県全域を含めた視野でもって探究活動を進めると思う。そうでないと高校教育でない気がする。そういう点から

すると、資料6-1の地域・中学校等からの意見の中に、「異なる自治体の地域の方との間に協力関係が構築できるか心配である。」という意見があるが、そうではないと思う。今、もうすでに高等学校で地域に協力を得ながら、全県下的な地域とのつながりを重視して協力をいただきながら活動しているので、書かれているような心配はないのではないかと思う。学校が丁寧に授業活動の目的を説明して、地域に協力を求めていけば必ず協力していただけると思っている。従って、校名そのものとは次元の違う問題になっていると思うので、校名と関連付けて検討する必要はないと思っている。

(佐脇委員)

- ・校名については、色々な事情があるということは分かるが、やはり長期的な目で考えていかなければならないと考えている。今回、国の教育再生実行会議で、高校と地域の結びつきについて提言している、私個人としては大変歓迎したいと思っている。
- ・小中学校においても、20年ほど前から行われるようになり、現在も地域学習は盛んに行われている。この学習を通じて子供たちは、地域の身近な些細なことに価値を見出し、自分の地域を誇りに思い、あるいは大事にしていきたいという思いを非常に高めることにつながり、高い成果があがっていると考えている。
- ・高校においては、より広範囲の高い視点での取組みになることと思うが、地域との結びつきを意識した取組みは、高校においてもとても意義深いものとする。しかし、高校においては、広い地域から生徒が集まるので、小中学校とは状況がかなり違うが、高校の場合も学校の所在地を中心に、より広範囲で、レベルの高い学習になるようにするためには、学校所在地の地域名をある程度学校名にしていくことが、生徒たちの意識を高めることにつながるのではないかと考える。また、中学校の生徒、あるいは保護者にとっても所在地が分かる学校名というのは、ある意味重要であると考えている。

(牧田委員)

- ・教育再生実行会議の方針の地域をどう定義するかということが、今、問題になっていると思うが、私は全く加藤委員の意見のとおりで、1市町村を地域として読み替えるというのは、たぶん県立高校においては間違いだろうと思っている。広域的なくくりでその地域を捉えることが、一般的ではないかと思っている。
- ・それを踏まえて校名の話をする、佐脇委員から意見があったとおり、本当に常識的な判断でいいと思っている。こねくり回して、新しいものを作らないといけないということよりも、単純にその地域にその学校があれば、その地域の名前を付けていくというのが、これまでの流れでもあるし、ごく普通の判断だろうと思っている。
- ・教育再生実行会議の普通科の問題は、私見を申し上げたい。今の普通科をどういうふうに変えていくかということは、実は再編校だけ

の課題ではなくて、現状ある普通科も実は対象になっている。だから、それをもし、この検討会で議論するのであれば、それは実は違うところの話ではないかと思っているので、教育再生実行会議の提言はあまり意識されなくてもよいのではないかと考えている。

(神川副会長)

- ・私が確認したかったのは、教育再生実行会議が言っている普通科の改革方向性、地域との関わりということで、名称とはなんら関係なく、実際は地域創生とか地域人材育成ということを考えてときに、それぞれの学校がどのような教育内容を考えていくのかとか、どの範囲で生徒に体験させていくのかというようなことを考える内容のことであって、ある市町村の方が自分のところのことを心配されるお気持ちもすごく分かるが、先ほどから出ている、広い視野、それから長期的にグローバルな人材育成をするということ言えば、教育再生実行会議のことを名称とつなげる必要は全くないのではないかと確認したいと思っている。

(井上委員)

- ・色々な意見がある中で、新高校が設置される側と設置されない側の意見が明確に分かれており、そういう観点はどうしても出てしまうと思っている。特に、過去をリセットして斬新な校名案とか、色々あると思うが、できるだけ生い立ちなり、今までの歴史なりというものを見ながら、最終的にこの高校がどういう方向に向かっていくかということを見ていくべきだと思っている。名称のつけ方について、リセットするような考え方というのは難しいのではないかと考えている。
- ・地域課題というのはエリアを限定する話ではなく、自分たちの近くにある課題を追求していこうということではないかと思っているので、これについても皆さんと同様である。

(稲垣委員)

- ・私は、ネガティブリストでいいと思っている。ただ、そう言いながらも、所在地ははっきりしたほうがいい。
- ・他県の例を見ると、抽象的概念を入れている名称もある。そういう名前は抽象的概念であり、教育の方向性のようだが、富山県としてふさわしくないのであれば、ネガティブルールで考えたらどうだろうか。あとは現場がやりやすいような形でどうだろうか。
- ・私の経験からいうと、地域を深く知り、地域のことを深く考えられるようになるのは、実は世界を知るからだと思っている。世界を知って、地域を知ると、単に地域を知るだけよりも、相当深く色々なことを考えられるようになると思うので、是非、そういうことを初等、中等教育の中では考えてほしい。

(大西委員)

- ・校名については、基本、親しみやすく分かりやすいものであればいいと思っている。皆さんの意見にもあったが、広々としたところを知って初めて自分の地元を振り返るというのは、自分自身の経験から全くもって



そうである。私は富山で学んだが、大学は県外、そして最初の6年間は東京の方で勤めていた。結婚したり、家庭を持ったり、子どもを持つというところで、富山県の良さがすごく身にしみ、特に、自分の子どもを入れるなら自分が卒業した小学校という思いで、富山の素晴らしい教育環境を求めて戻ってきた。

- ・自分の卒業した高校の校名が再編でなくなってしまうことを想像すると、非常に悲しい気持ちになるが、ただ、1つ1つの学校、今、再編対象校になっている学校も伝統を持ち、卒業生の心に刻み続けた学校の名前なので、それは十分に大切にしていきたいと思っている。

(金岡会長)

- ・皆様から概ね常識の範囲内で決めてくのがよいだろうという話であった。先ほどからの議論、前回もそうだが、再編対象校にだけフォーカスが当たっているが、再編されたとしても定時制合わせて県立高校は40近く残るわけで、ここだけを取り出してさまざまなことを議論していてもしょうがない。県立高校全体の中での位置づけで、方向を考えていく必要があると感じている。そこで今ほど、地域と校名の関係で、県立高校の名前の付け方について、何かこれまでの具体的なルールなり、変遷があるのか、事務局から教えていただければと思う。

(事務局)

- ・前回も、校名のルールはあるのかということで、一通り話しをしている。まず、全日制の県立高校の校名については、高校の所在地の市町名を使用したものがほとんどである。ただ、同じ市内に、複数の全日制高校がある場合には、例えば、工業高校、商業高校のように職業系の学校でそうした名称を用いている高校もあるが、そのほかに東西南北の位置を現す名称を付けているケースもある。もちろん旧の市町村の名前を付けたものもある。
- ・東西南北の位置を記した校名については、昭和20年代には東部とか西部のように部を付けた高校名とされていたが、昭和30年以降は東、西のように部を付けない校名とされている。部を付ける場合も付けない場合も、いずれも位置を示すものには変わりはないが、それぞれの高校の設置や変遷に応じ、状況を踏まえて判断されている。具体的には、昭和37年に新設の富山東高校、あるいは昭和49年の新設の富山南高校は、過去に、所在地の異なる別の高校として実在していました富山南部高校、あるいは富山東高校と区別するため、部を付けない富山東高校、あるいは富山南高校とした。また、昭和51年に改称され名前が変わった富山西高校、また、平成9年に改称された高岡西高校などでは、学校の変遷の過程で同校自身が過去にそれぞれ、富山西部高校、あるいは高岡西部高校であった時期があり、過去の部の付いた校名と区別するために、部を付けない富山西高校、あるいは高岡西高校とした。このような傾向があると思っている。

(金岡会長)

- ・今の説明では、他の高校との関係、歴史的な関係もある中で、新たに高校を作るなり、再編の際にはその周辺の状況も加味しながら、ただ基本的にはその所在地、または東西南北に近い名称を付けてきたということで現在の形があるということによいか。

(事務局)

- ・はい。

(金岡会長)

- ・各委員から一通り2回ずつ意見をいただいた。特に、2つ目の校名については、かなりデリケートな内容だが、皆様の意見を伺うと、前期の再編の際の基本的な考え方に基づいて5つの高校が再編され、新高校に入学した多くの生徒から成果があったというエビデンスも示されているので、前回の再編からある程度時間が経っているとはいえ、それを大幅に変える必要があるかどうかということについては、皆様の意見の総体として、そこまで考える必要はないのではないかと意見が多かったかと思う。
- ・一方、具体的な職業科の再編の中身とは違っているので、前期の再編の考え方に示された文言については、一部修正が必要であると思う。
- ・そこで、前回の再編の考え方をそのまま踏襲するわけでは決してなくて、今回新たな委員が集まり、衆知を集めた結果、やはり前期の再編の考え方をある程度、いいところはそれを踏まえて後に結び付けていくのがいいだろうという考え方を多くの方に示していただいた。その方向で、私と神川副会長で話をして、第3回に向け、基本的な考え方を取りまとめるということによろしいか。

(神川副会長)

- ・1つだけ追加したい。前期再編も参考にしながら、再編統合によって名前がなくなっていく高校があった場合には、メモリアルを整備していくというような視点も、その歴史をしっかりと刻んでいくというようなことも併せて検討していくということを改めて確認していただければと思う。

(金岡会長)

- ・今日、話題になった教育再生実行会議の中身で、参考8の2/2ページの地域や大学等との連携の在り方の2つ目の丸の中ほどの、「その際、多くの公立高等学校が都道府県により設置され、基礎自治体である市町村等との間の協働に課題がある場合があることを踏まえ」という記述を踏まえた上での、教育再生実行会議の提言だと考える。
- ・ということは今回の検討会のご意見を踏まえながら、富山県の教育委員会の立場としては、各市町村との話し合いを、折々、密接に続けていただく、そして全体の方向とすると皆様のご意見に従って取りまとめさせていただくが、いくつか貴重なご意見、特に新高校が設置されない高校の生徒に対するフォローをどうするかということ、そしてまた、必ずし

も一つのルールで決められないような再編の枠組みというの今回含まれているわけで、それに対するよりきめ細かな手当てが大切である。そしてまた、今ほど神川副会長からあったメモリアルをどうしていくかということだ。

- ただ、メモリアルについては個人的には、中途半端なものを物理的に残していてもどうなのかと。後の人が処理しきれず、それで一部屋置くというのも変な話なので、私はむしろメモリアル的なものはデジタル的な形で、誰でも見られるような形でのアーカイブが望ましく、実態として場所をとるようなものばかりたくさん残すというのはどうなのかなと思う。
- 本日は、委員の皆様から様々なご意見をいただいた。特に、高校は地域の名前が重要という意見も複数の方から出された。前回の高校再編の実績もあるので、その時の議論も踏まえながら検討していきたい。
- 校歌、校章など具体的なことについては、さらに議論が必要である。企業であってもブランドをどう作っていくかというのは難しい。せっかくあるブランドを捨てるということも非常にもったいないし、そのブランドをどういう形で継承していけばよいかということが必要であり、新しい学校を作るからすべてリセットでよいということはないと思う。それでは、同窓生にとってかわいそうなことになる。伝統は何としても継承した形で、新しい高校、校名に引き継がれていかなければならない。

(神川副会長)

- それをまた、学校関係者の皆様には是非話し合いの中で検討していただきたい。また、同窓生の思いもある。例えば、富山大学では門柱一つ残しておくだけでも、過去の方が懐かしがられる。広いスペースをとるという意味ではなくて、アーカイブでもいいと思うが、何か象徴的なものも現場の方々に検討していただきたい。

(牧田委員)

- 1点だけ、言い忘れたことがある。先ほど、校名については意見を申し上げたが、校章とか校歌については、校名がそのまま残るのであれば、校章、校歌もそのまま残すということが妥当だと考えられる。是非、付け加えておいていただければと思う。

(金岡会長)

- 後は神川副会長と連絡をさせていただくが、是非これだけは言っておきたいということがあれば、お願いしたい。
- それでは時間がきたので、事務局の方にお返ししたい。

## 6 閉会

議事が終了したので、15時00分、司会が閉会を宣した。